

「弁理士育成塾 2014 年度 電気コース」 について



会員・育成塾講師 川井 隆

要 約

弁理士育成塾の講師には、明細書作成経験の浅い弁理士を「明細書が書ける」弁理士に育てる、という大きな使命がある。しかし、期間は 1 年間で 100 時間しかない。この短期間の間に、どのように指導していくか、方向付けをどうするか、どうすれば効率的か等々、日々悩み、工夫しながら、そして苦勞しながら講義を進めている。一番の悩みは、受講生のレベルと要望に応え得る課題の選定である。ここでは、講義の概要と、選定した課題について記載する。

目次

1. 経緯
2. 開講前
3. 実際の講義について
4. 講義の後
5. その他（各回の課題）

1. 経緯

弁理士育成塾の講師を依頼されたのが 2013 年末である。明細書作成の機会や指導を受ける機会の少ない新人弁理士を対象にした 1 年間の講座とのことであった。

その際イメージしたのが、この数年間講師として担当している実務修習「クレームの作成」である。この講義では、弁理士試験合格者を対象として、発明の把握の奥深さや大変さを修習生と共に考えるようにしている。グループ討論が中心であり、その場に応じた対応、解説、誘導等が必要であるため、講義中はかなり集中力が要求され精神的に疲れるものではあるが、元来教えることが好きな私としては、とても楽しい講義である。

育成塾については、その実務修習の延長線上にあるものと考え受けることにした。

2. 開講前

開講前に行われた数回の講師会議が行われた。この講師会議において、既に開講しているパイロット版育成塾の各講師から講義内容や進行方法の説明を受け、さらに、自分の講義で何をどのように伝えていくかについて検討した。

検討結果は、2014 年度弁理士育成塾のパンフレットの「講師からのひとこと」に掲載した次の通りである。『明細書の作成は、発明の本質把握と、把握した発明を広範な技術的内容として文章化することが中心となります。』

本講座では、各事例について複数人で議論しながら発明の把握力を身に付けていきます。また、把握した各事例について明細書（一部又は全体）を作成、提出し、後日全員で議論・添削することで文章化力を高めていきます（各提出物は受講生内で開示されます）。

簡単な事例から始め、各自が単独で発明を把握し文章化できるようになることを最終目標にします。クライアントから頼られる弁理士を目指して頑張りましょう。発明の本質把握作業の奥深さ、楽しさを味わいながら受講してください。』

3. 実際の講義について

(a) 第 1 クール（8 回 40 時間）で発明の把握を中心に、第 2 クール（6 回 30 時間）で明細書の充実、第 3 クール（6 回 30 時間）で発明の把握と明細書作成の総合力アップを目標に開始した。

担当は電気クラスであるが、塾生全員が容易に把握できる課題とするため、第 1 クールでは電気にこだわらず日用品等を題材とし、その後電気の回路からソフトウェア関連発明に移行している。

(b) 次回の講義に向けて予め課題を出した。各塾生には、講義までに課題を検討し、検討結果の提出を義務づけている。これまでに出した課題については後

述する。

(c) 当初、課題についてグループ毎に討論をし、その後討論結果の発表と講評をする予定であったが、塾生 7 名 2 グループなので時間の有効活用のため、結果発表は止めることにした。現在は、各グループの討論の場に入り、個別に解説、誘導等を行っている。

(d) 第 1 クール前半は講義中心に進める予定であったが、塾生から「できるだけ多の明細書を作成したい」との要望があった。

そこで、完成度は問わず、実際に書くことの大変さを早期に認識してもらうと共に、現在の実力を認識してもらうために、第 1 回目の講義終了後に明細書を作成する課題を出し、第 2 回講義までに提出してもらった。

以降、できるだけ明細書の作成課題を出すようにしている。第 10 回目 (第 2 クール 1 回目) までに、合計 8 通 (講義後の再提出を含む) の明細書が作成、提出されている。

提出された明細書については、1~2 通について添削した内容を画面表示して詳細に解説し、他については気付いた点を指摘、解説している。

(e) 現在第 2 クールに入っているが、各自明細書を作成するだけでなく、他の塾生が作成した明細書の添削 (他者添削) を課題に含めている。

添削という作業を通して他者の明細書を詳細に検討することで、自分が作成した明細書の間違いや不足点に気付くことができる。

例えば、他者添削の過程で用語の不統一や主語の欠落を指摘したが、自分の書類を再検討してみると同様であったり、自己が受けた添削も同じ指摘がされていたりすることがある。また、解りやすい説明をするために他者がどのように表現しているか、工夫しているか等についても、添削を通した丁寧な読み込みで気づくことができるようである。

この他者添削はかなり有意義なので今後も継続する予定である。

4. 講義の後

毎回反省会を兼ねた飲み会を近くの居酒屋で行っている。

講義や課題から離れ、業界内の話、弁理士会関連の話題、クライアントとの関係、事務所開所当時の苦労話などなど、各種の実情や裏話に花がさき、ストレスも解消され、有意義なひとときとなっている…はずで

ある (私だけか?)。

ただ、先日受けた健康診断では、悪玉コレステロール値と尿酸値に要注意信号が出てしまった。講師が講義を欠席する訳にはいかないで、体調管理が今後の課題である。

5. その他 (各回の課題)

参考までに、これまでに出了課題について記載しておく。講義は各週で行われるので、次回の講義までの 1 週目と 2 週目に分けて課題を出している。

第 1 回講義用の事前課題

課題 (1) -1 「六角形の鉛筆」、課題 (1) -2 「消しゴム付き鉛筆」

従来品との差異、代替・変形例の検討と新機能、請求項の作成

第 2 回講義用の事前課題

1 週目：課題 (2) 「露取り器」の明細書作成

2 週目：課題 (2) 「露取り器」の分析表 (構成 - 機能 - 効果の分析) の作成

第 3 回講義用の事前課題

1 週目：第 2 回講義を踏まえ、課題 (2) 「露取り器」明細書を修正して再提出

2 週目：課題 (3) 「ティッシュボックス」について、特許請求の範囲を作成

第 4 回講義用の事前課題

1 週目：課題 (4) 「回転スライドクリップ」の明細書作成 (従来技術は 3 を対象)

2 週目：課題 (4) -2 「従来クリップ 3」を発明とした場合の、ゼムクリップとの機能の差異について検討

第 5 回講義用の事前課題

1 週目：第 4 回講義に基づき課題 (4) 「回転スライドクリップ」の明細書を再提出

2 週目：課題 (5) 「ダブルクリップ」の請求項を作成

第 6 回講義用の事前課題

1 週目：課題 (5) 「ダブルクリップ」の明細書作成

2 週目：課題 (6) 「体温計付き腕時計」の変形例検討、発明のポイント、請求項作成

第 7 回講義用の事前課題

1 週目：課題 (7) -1 「光受信回路」図 1 の構成 (空間的結合関係) 説明を作成

2 週目：課題 (7) -2 「光受信回路」図 3 の構成 (空間的結合関係) 説明を作成

第 8 回講義用の事前課題

1～2 週目：課題 (8) 「ネットオークション」について、明細書の作成

2 週目：余裕があれば「逆オークション」のストーリーを検討

第 9 回 (第 2 クール第 1 回) 講義用の事前課題

1～2 週目：課題 (8) 「ネットオークション」の明細書の再提出

3 週目：課題 (9) 「仮名漢字変換装置」のフローチャートの作成。発明の把握 (請求項の方向性)、構成図についても要検討 (提出不要)

第 10 回 (第 2 クール第 2 回) 講義用の事前課題

1 週目：課題 (9) 「仮名漢字変換装置」の明細書作成

2 週目：他の塾生の明細書 (課題 (9)) について、自分の明細書と比較のうえ、添削して提出

第 11 回 (第 2 クール第 3 回) 講義用の事前課題

1 週目：課題 (10) の内容について検討し、構成図とフローチャートを作成

2 週目：課題 (10) の請求項を作成

(原稿受領 2014. 11. 5)